第７９号
令和5年8月28日
編集責任者　石井　卓也

清里農連通信

発行　清里町農民連盟
清里町羽衣町2番地
TEL 0152-25-3792
FAX 0152-25-3793

北見地区農民連盟・中央要請行動

６月２９日から３０日にかけて、北見地区農民組織代表者・青年部の３７名で中央要請行動に行ってきました。内容としては、２９日は道内選出議員への要請ならびに意見交換、農林水産省・対策各課との意見交換会、３０日は農林中金総合研究所との研修・意見交換会となります。

道内選出議員の石川香織衆議、勝部賢志参議との意見交換では共済・収入保険の問題点や、自然災害、鳥獣被害、運輸業界の２０２４年問題についてなどの意見がありました。

農水省・対策各課との意見交換では、肥料高騰対策の高騰率1.4を動かすには肥料価格等の客観的なデータが必要で、そこを動かすのはやはり難しいとのことでした。

次に、持続的な畑作事業の政策確立についてでは、種子馬鈴薯圃場の復活ルールはシストセンチュウの拡散が怖いので慎重に検討していくそうです。また、鳥獣被害対策、大豆の作付け等についての意見交換が行われました。

酪農・畜産の経営の安定については、補給金単価計算の早急な根本的な見直し。新規就農の問題点として設備投資がかなりかかるので、小さな経営でも運営できるシステムを構築してほしいとの要望がありました。また、資金借入の償還が重い場合の対応の提案が農水省側からありました。

議員、農水省との意見交換では参加者から活発に発言がされ、有意義な時間になったと思いました。

３０日の農林中金総合研究所では、スマート農業利用した今後の農業経営などについての意見交換が行われました。自動操舵を用いた省力化だけではなくデータを活用していくことで更なる省力化・収入増を目指していけるとのこと。また、土壌圧縮についての話や、それの対応策として小型無人トラクターの導入など興味深い話が聞けました。

２日間の中央要請行動・意見交換でしたが、現場の状況や意見・要望を伝えていくことはやはり必要だと思いました。

鈴木





道農連・春闘畑作野菜対策中央行動

７月１９～２０日道農連・春闘畑作野菜対策中央行動に参加してきました。北見地区からは、梅田委員長他１５名、全道より総勢３８名で農水省との意見交換、北海道選出国会議員要請を行ってきました。19日は、米国産生馬鈴薯輸入解禁反対の項目で意見交換を行ったなかで、輸入馬鈴薯は船から加工施設まで真空包装で運ばれるため土が落ちることはないとの回答でしたが、今問題になっているシロシストセンチュウも未だに侵入経路がわからないなか、生馬鈴薯の輸入はしないでほしいとの意見があった。

畑作物、甜菜・馬鈴薯対策では、甜菜は輪作体系の中で主要な作物でもあることから、安心して作付できる対策を構築してほしいなどの意見のなかで、砂糖消費量が減少している中在庫の増大、糖価調整制度の収支が悪化し持続的に生産が困難になるので指標面積に応じた作付、コスト削減等には必要な支援をするとの回答だった。

馬鈴薯では、種子馬鈴薯の不足について種子馬鈴薯の増産に向け新たな種馬鈴薯の産地形成等に対する支援処置をしているとの回答だった。

野菜対策では、主に農産物の輸送対策で２０２４年問題のトラック輸送対策、ＪＲ貨物等について意見交換した。

夕食の懇親会では各地区での現状など話し、その場に来ていただいた徳永エリ参議、石川香織衆議とも直接地元の問題などを話し有意義な懇親会になった。

２０日は午前道選出国会議員要請を行ったが同日にJA北海道中央会での議員要請があり直接議員に要請書を渡せなかったのが残念でした。

その後の農水省との意見交換ではまず、基本計画の実効性確保・省力化、担い手対策・作物別対策の中で麦・豆対策の質問で国産麦優先を堅持しコスト上昇分を適正に反映させる対策がほしいとの意見では、ゲタ対策で交付単価の上乗せを行うとともに、国産拡大を図るため、作付の団地化や生産拡大のための機械導入、外国産から国産切り替えに取り組む製造業者への商品開発支援を行っているとの回答だった。大豆に関しても同じような回答でした。

食の安心安全に関する制度の厳格化では、植物防疫検査で海外又国内旅行者による農地への立ち入りについて空港や港でのパンフレットの配布などでの注意喚起を行うなど対策を行っているとのことです。

最後に、燃油・生産資材等価格高騰対策では、全国一律では十分な補てんにはならず、確実に高騰分が反映できるよう対策を講じてほしいとの意見で、地域単位で化学肥料低減の取り組みを支援する追加対策をするとの回答だった。

最後に、今回参加した皆さんの意見要望が少しでもこれからの農政に反映できればと思います。

桑 島

編集後記

小麦の収穫も７月２３日から８月３日という短期間で終わり、あっという間に馬鈴薯の収穫が始まります。連日の猛暑で疲れが蓄積していると思いますが、怪我等には十分に注意して作業を行っていただければと思います。

鈴木